

### 3. 1.5テスラMRI装置更新のお知らせ

平素より当院のオープン検査にご依頼、ご協力いただき厚く御礼申し上げます。

この度当院では1.5テスラMRI装置を更新いたしました。新しい装置フィリップス社製のIngenia 1.5T Omega HPをご紹介します。

○患者さまにやさしい検査環境

・ワイドボアマグネットにより快適性の向上

70cmのワイドボアで寝台幅と開口径も広くなり、閉所が苦手な患者さまの負担軽減や体型が大きな患者さまでも安心して検査を受けていただけます。

・MRI装置対応ディスプレイ搭載（DVD映像）により、検査中の閉塞感が大幅に軽減されます。

○高速化技術による時間短縮

最新高速化技術（圧縮センシング）により画質の低下を最小限にした時間短縮が可能です。

○デジタル化による高画質化

高磁場3.0テスラ装置とほぼ同等の画質で、短時間での描出が可能となりました。

検査時間の短縮により、予約枠を増枠し、オープン検査や緊急検査にもより柔軟に対応できるようになりました。これからも地域のみなさまに信頼される病院を目指し、最新の画像装置を共同利用いただけるよう情報・画像提供に取り組んで参ります。

今後もオープン検査のご依頼をよろしくお願い申し上げます。



### 第一東和会病院、第二東和会病院 地域連携室

TEL 072-671-1118 (第一)

FAX 072-671-1090 (第一)

受付時間 (第一)

平日 8:30~19:00

土曜 8:30~17:00

時間外休日

072-671-1008 (代表)

E-mail renkei@towa-med.or.jp



医療法人 東和会

第一東和会病院

### 4. 医療従事者研修会再開のお知らせ

しばらくの間、延期させていただいておりました医療従事者研修会ですが、9月から随時再開していくこととなりました。

感染対策を取りながら安全に開催できるように努めて参りますので、以前と変わらずのご参加をよろしくお願いいたします。

9月からの医療従事者研修会に関しては、今回別紙同封しております書面をご確認をお願いします。お申し込みは、「輪」に同封しております、「第一東和会病院 勉強会参加申込書」をFAXしていただくか、もしくは、地域連携室(072-671-1118)までご連絡をお願いします。



All you need is love ...

発行日 2020年 8月 1日

第 6 巻 第 5 号



医療法人 東和会

第一東和会病院

TOWA ~架け橋~

## Monthly NEWS

連携診療所向け月刊情報誌

輪  
わ



撮影者：医局長 兼

内視鏡外科センター副部長

千野 佳秀

### 1. ご挨拶

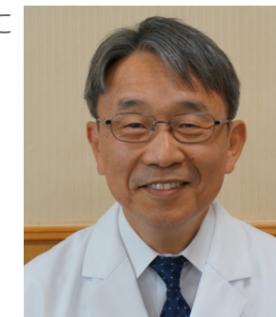
医療法人東和会 第一東和会病院 病院長 田中 源重

新型コロナ肺炎の感染が4月以降日本中に広がり、一時終息したかに見えましたが、最近第2波の感染徴候が見られます。

第一東和会病院も一時、外来、入院、手術、リハビリを縮小し、健診センターの閉鎖を余儀なくされましたが、ようやく通常診療に復することができました。

しかし、新型コロナ肺炎は消失したわけでもワクチンや治療薬ができたわけでもありません。

しばらくは新型コロナ肺炎を十分に警戒しながらの診療が必要となりますが、第一東和会病院は急性期病院として地域医療に貢献していきたいと考えております。今後ともご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。



### 目次

	Page
ご挨拶.....	1
新型コロナウイルス	
感染症対策.....	2
".....	3
1.5テスラMRI装置更新	
のお知らせ .	4
医療従事者研修会再開	
のお知らせ... .	4

## 2. 新型コロナウイルス感染症対策～第1波を乗り越えて～

第一東和会病院 感染管理認定看護師 師長 吉野 正治

2019年12月、中華人民共和国湖北省武漢市において原因不明の肺炎患者が発生しているという情報からわずか数ヶ月で世界中に感染が拡大し、人々の生活が一変するとは思ってもいませんでした。年が明け1月に入ると中国での医療崩壊、都市封鎖、武漢市からチャーター機での日本人帰国、日本人初の感染者の発生など私たち自身もこの未曾有の事象の当事者となっていきました。

その後は日々更新される行政からの対応策やメディアから発信される様々な情報を取捨選択しながら、患者さまと職員を守る感染対策の構築に奔走しました。5月25日に非常事態宣言が解除され、感染の第1波が終息しました。幸い東和会グループ内で院内感染、施設内感染を防止することができました。社会経済活動、学校などが再開して1ヶ月を経過した7月頃から、じわじわと第2波が押し寄せてきています。

そこで第1波時の感染対策を振り返りつつ、第2波に向けての準備についてまとめました。

### 【対策1：機動力がある組織作り】

感染拡大を災害ととらえ、事業継続計画（BCP）に準じて対策本部を設置しました。介護・訪問事業系の施設でも対策本部を設置しました。院内感染を防止するためには人材確保、ルールの整備、物品調達・確保、迅速な判断が不可欠です。そのため理事長、院長を中心とした指揮系統を明確にしました。また各分野のワーキンググループを発足し、各専門分野が短時間で多くの対策を構築できる仕組みを作りました。責任の所在が明確になったこと、職種の壁を越えて意見を言い合える環境が多くアイデアを生み、効果的な感染対策を構築することができました。



### 【対策2：発熱者のトリアージ】

新型コロナウイルス感染症は特徴的な症状が乏しく、発熱や咽頭痛、咳、感冒症状など一般的な風邪との鑑別が難しいため、地域の医療に混乱を招きました。

私たちは、①発熱患者さまが行き場を失わない、②病院内で感染が拡大しないために、発熱者をトリアージして院外での診療を行いました。

#### 具体策④：電話による受診相談

有症状の患者さまが直接受診され、患者さまから患者さまへの感染リスクを軽減するために、電話にて症状を聞き取り自宅安静、当院又は最寄りの診療所の受診、保健所へ新型コロナウイルス感染症の受診相談の選定を行い、患者さまのリスクマネジメントと当院の診療機能の維持に努めました。

#### 具体策②：発熱外来の開設

正面玄関で検温を行い、発熱患者さまは院外で診療を行いました。診療の結果、新型コロナウイルス感染症の可能性が除外できない場合は、PCR検査を行いました。感染症の可能性が低いと判断した場合は院内でご希望の診療科の診療や検査を受けいただきました。



この取り組みは、院内での感染リスクを低減させ、来院患者さまが安心して診療・検査・手術を受けていただくことにつながったと考えます。また医療を提供する職員にとっても感染に対する不安の軽減につながったと思います。

#### 【対策3：PCR検査・抗原検査態勢の整備】

感染拡大第1波の時は、行政のPCR検査態勢が脆弱で、病院や診療所で新型コロナウイルス感染症を疑った場合に、迅速にPCR検査を実施することができませんでした。

そのため全国的に発熱患者さまが自宅安静中に胆嚢炎や虫垂炎、尿路感染など呼吸器系以外の疾患が重症化するという問題が発生しました。

当院では民間検査施設へのPCR検査の委託契約や抗原検査を導入することで、発熱患者さまの新型コロナウイルス感染症罹患の有無を早期に判定し、陰性の患者さまが少しでも早く原疾患の専門的な治療が受けられるよう整備しました。

#### 第2波に向けての準備

政府は第1波の時のような大規模な社会・経済活動の自粛は行わない方針です。そのため、通常の診療体制を維持しながら新型コロナウイルス対応をしなければなりません。そのため人材確保が大きな課題となります。サーモグラフィーやオンライン面会の導入、発熱外来診療の効率化や地域の診療所との役割分担を明確化させる仕組みを構築しています。

マスク越しではありますが、皆さまとしっかりコミュニケーションを図りながら東和会グループが一丸となってこの難局を乗り越えていきたいと考えています。

今後とも、感染対策にご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

